

NPO・草の根活動

点訳ボランティア
「野いちご会」(柏原市)

私たち「野いちご会」は1990年10月に結成、今年で16年になる点訳ボランティアグループです。会員は現在18名で、会員の中には視覚障害者もおり、その方のアドバイスも受けながら活動しています。

活動の内容としましては、点字カレンダーの作成からスタートしましたが、これは結成以来16年続けており、利用者に喜ばれています。そして新聞などのコラムを点訳した月刊の会誌「のいちご」の発行や、交流及び共同学習の生徒・学生に対する教科書の点訳などを柱として活動しています。昨年は府立高校の保健体育の副教材を点訳しました。最近では柏原市の「広報」の抜粋、柏原市社会福祉協議会の「社協かしわら」、自立支援センターの「会報」(びあ・かしわら)などの点訳も定期的に行っています。このほか、小学校の点字体験学習に協力し、点訳絵本をその小学校へ寄贈したり、介護施設の利用説明書や契約書などの点訳に関する依頼にも随時対応していますが、これからも活動内容の充実に努めたいと思っています。



昨年4月からは、点訳した小説を柏原市立図書館に蔵書として置いてもらえるようになりました。

また5年前から、柏原市社会福祉協議会の後援で点訳ボランティア講座を開講し、後に続く会員も増えてきています。点訳はとても地味で根気と時間を要する作業ですが、大変やりがいのあるボランティア活動だと思っています。会員一同微力ではありますが、これからもより一層力をあわせ、視覚障害者のニーズに少しでも多く応えられるよう努力していきたいと思っています。

寝屋川精神保健福祉ボランティア
「サンルーム」

1996年2月に寝屋川市内の精神保健福祉に関わる機関、団体が主催した精神保健福祉ボランティア講座「出会いの輪を広げよう」の受講が結成のきっかけでした。ストレスの多い現代社会では、子どもから大人までがたくさんの悩みを抱えており、こころの問題に関心が深まってきつつある状況でもありました。こころの病を抱える方たちの社会参加を助けるとともに、こころの病について理解と関心を深めることを目的として、同年7月に有志数名でサンルームを誕生させました。

その後の4年、ボランティア講座を主催する側にも入らせていただき、志を同じくする会員も増え、また、私たちの活動を側面から応援して下さる賛助会員の方たちとともに現在に至っています。名前のごとく温かいお日さまポカポカの明るい部屋で病める人、悩める人、元気な人がともに集い、ふれあい、思いを分かち合う、気負わずさりげない活動を目指しています。

活動内容は、作業所、医療機関のデイケア、レクリエーション、イベントの手伝い、自立支援促進会議への出席、地域交流事業「ひなたぼっこの会」の主催等をしています。活動も10年を迎え、メンバーさんたちの自立もすすみ、それをとりまく環境も整備され、私たちの活動も次の場面を検討すべく、転機を決断する年と考えています。

障害のある方たちにやさしい街、それは健常者といわれる人たちにとっても住みやすい街といっても過言ではないと思います。思いやりのある街づくりの担い手として、ちいさなグループから発信できることは何かを求めて、今後も活動していきたいと思っています。

